

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100304		
法人名	医療法人 大分朋友会		
事業所名	グループホーム ほうゆう(りょうぜん)		
所在地	大分市大字下宗方櫛引258番地		
自己評価作成日	平成26年3月10日	評価結果市町村受理日	平成26年7月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の立地・環境が自然に囲まれ、ゆったりした家庭的な雰囲気の中、開放的でもあり、利用者・家族共々安心して生活出来るよう、又 医療との連携も充実している施設作りを職員一同取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域の医師が集まって、その人らしく過ごすことを目的に立てた法人で、地域医療と密接に連携している。利用者の思いを尊重したケアを実践しており、施設をせず自由に外に出て楽しんでいる。ゆったりとコミュニケーションを交わし、利用者一人ひとり思い思いのペースで過ごしている。
 ・全員が自分で箸を使いゆっくりではあるが、しっかり噛んで食べている。食前の体操もバリエーション豊かで、職員は楽しく運動できるよう支援している。また、排泄もトイレに行くことを基本として、立位を維持するため、生活の中にリハビリを取り入れている。
 ・職員が互いに研鑽し合って前向きに取り組んで、様々な面でアイデアを出し実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、運営方針は施設内に掲示常に意識して実践に努めている	地域の医師である理事と職員と一緒に考え、長年の地域の課題である、「認知症になっても地域で、明るく伸び伸びと家庭的な暮らし」をめざして立ち上げた施設である。方針や理念は職員、家族、利用者、運営者で共有し、実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり(ゴミ拾い、盆踊り、老人会の集い、敬老会、また地域ボランティアの受け入れ、周辺の田畑に来られる方との交流などを行っている	地域の一員として利用者がゴミ拾いや老人会など参加している。隣接地に法人の農園があり、地域の方たちが利用し気軽に声を掛け合っている。前庭に足湯(温泉)を作って地域に開放予定である。地域医療機関と連携し、キャラバンメイトとして啓発にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大分市認知症家族介護支援事業(年4回)認知症サポーターとして老人会や小学校への出張講座へ参加し、認知症をより広く理解していただく活動をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、施設の状況報告 外部の方の目を通しての意見をお聞きして運営に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の利用状況の報告 運営推進委員会へ出席していただき必要時は市の窓口へ出向きアドバイスをいただいている	立ち上げ当初から、相談しアドバイスを受けている。市からの研修案内も多く、参加して職員に伝えて役立てている。困った時には相談でき、市からの委託事業も自主的にやっている。センサーについてもアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は安全管理上、施錠(21時) 日中は常に開放(夏場は窓もあけている) ケアカンファレンスで具体的な行為を検討することで身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での研修や、新聞報道を職員で集まり読み上げて、お互いに注意を呼び掛けている。面会が多く、常にオープンで窓も全開出来、玄関や裏戸、ウッドデッキの扉など全体的に自由に出入りができ、庭に出て楽しんでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待が見過ごされる事の無いよう注意、防止に努めている。又職員間でも情報交換し、注意しあっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講演会、研修会に参加、学ぶ機会を持つようにしている。必要があれば、アドバイス出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に時間をかけて説明を行い、不安、疑問がないか確認、納得したうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会は頻回であり、要望、意見があればその都度、対応検討を行っている。又面会時に最近のご様子等お話をし情報提供している。	ほとんどの家族が面会によく来ており、近隣の入居者であることから、職員と家族は話しやすい関係ができています。洗濯物の交換に来られる家族が多く、話し合いのきっかけとなっている。珍しい面会者は写真に撮り家族などに渡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議(朋友会全体)に出席し、グループホーム職員の意見や要望を提案し、対応している。	毎月の会議でユニットごとに意見を出し合い、ユニットの管理者は法人会議でそれらの意見を出している。また伝達用のノートに意見を書き込み、改善に向けた取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営はスタッフ全員で行っている自覚のもとスタッフが楽しく仕事出来る事を第一目標として取り組んでいる、又要望には常に耳を傾けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種、研修会や講演会に出席、また機会を利用するよう推進している、施設内でもPTIによるトラスファー研修や感染(吐物処理法)について勉強会を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分市グループホーム協会に加入、勉強会、研修、レクレーション見学会等に参加、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前入居時に本人、ご家族と面談 十分に話を聞き、要望に添うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前入居時に本人、ご家族と面談 十分に話を聞き、要望に添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前入居時に本人、ご家族と面談 十分に話を聞き、要望に添うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持つ能力を発揮していただくよう 出来る事は職員がサポートしながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間の制限もなくいつでも来れる時に来ていただくようにしている事で面会頻度は多く本人、職員の関係も密になっている。 (家族との外出も制限はない)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会出来るよう配慮、また一緒にお茶を飲んだり、昼食が出来るよう取り組んでいる。	化粧やハーモニカ、習字をやる地域のボランティアの方々が定期的に訪問しており、馴染みの関係ができています。友人や知人も訪ねてきています。馴染みの場所へ出かけるのは家族が中心で、グループホームとしての個別的な支援が課題となっている。	一人ひとりの馴染みの場や人、馴染みの事柄等情報を聞き取り、職員と出かけていく支援が期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	突然怒り出す入居者や難聴の方など、スタッフが間に入ることで利用者同士が穏やかに日常を過ごす要支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居については継続的にかかわる事が必要な場合はニーズに合わせ相談支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の状態や思いを大切にし以降に沿ったケアになるよう心掛けている。	入所時に好きなことや趣味、生活歴などをシートに書き込んでいる。一日の生活の流れの中で出来る事を見つけて支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前本人や家族からお聞きした生活スタイル大きく変えないよう配慮して施設での生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で身体の状況や能力を見極め、スタッフ同士のミーティングや申し送りで日々のケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、ミーティング等で意見を取り入れ、介護計画に反映している。	職員は面会時の家族の意見も含めてスタッフ会議で意見を出し合い、その人らしく生き甲斐を持って楽しく暮らせる支援方法を具体的に盛り込んだ介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の変化に応じて職員間で話し合ったり、朝の申し送り、申し送り簿で情報を共有し見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じ、柔軟に対応している。(医療との連携等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問ボランティアや地域の行事への参加など個人の能力に応じて対応を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、定期的な在宅診療と24時間対応の連携体制を確保、健康管理には充分配慮している。	地域のかかりつけ医が集まって作った法人であり、利用者は馴染みの医療機関で受診している。隣接の診療所から訪問診療を受けることもでき、安心である。専門医への受診は状況により、家族と職員が同行し、家族のみの時は状況等の連絡を取り合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を確立、利用者に異常が見られたら速やかに支援出来るよう体制を確立している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に様子把握の為、訪問、状況を確認し、職員へ情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合っているが、必要時にはその都度意向を聞き医療機関への対応を行い支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携体制も整っており、マニュアルに添って対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと定期的な避難訓練を行い、安全確保に努めている。	想定別にマニュアルを作り、年4回の訓練を実施。消防団からの参加をきっかけに、利用者の顔写真を提供し、一人外出時の協力も依頼している。夜間想定訓練も行い、地域の防災訓練に参加したり、コンセント掃除など細かい場所にも気配りしている。備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの守秘義務については職員一人一人が充分理解、徹底しプライバシーの確保に努めている。	言葉による拘束や言葉の暴力について話し合い、支援に活かしている。排泄誘導は周りに気づかれないよう配慮し、入浴の際は羞恥心の心配りをし、人格を尊重した支援である。食事の時のエプロンも介護用でなくオシャレなエプロンを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行により自分の要望など表現するのが難しくなっている方については日常生活の中で職員が思いを感じ取り支持出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則、日程にとらわれず、その日その時の状況にあわせ支援出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや個性を尊重した支援を行うよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を使った料理、又地域の方に頂いた野菜等、どんな料理法があるか、聞いたりして、希望を取り入れ食事作りをしている。(一緒に準備や片づけをしたりする)	全員が箸を使い自力で食べるよう、同じテーブルで見守っている。昼食は利用者と相談し、食べたいものを作っている。誕生会にはちらし寿司やおはぎ、にぎり寿司などみんなが好きな物を提供、週1回は麺類、旬の食材を使った食べやすい食事である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い食欲のない時又いやなメニューの時は違う料理を提供するなどその時に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、就寝前、食後に口腔ケアを行っている。自立の方は声掛け、充分にできない方は職員が行うようにしている。(歯科医との連携もある)		

事業者名:グループホームほうゆう(りょうぜん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員トイレでの排泄にて声掛けや、一部介助を行いながら支援している。	全員がトイレで排泄出来るよう、一人ひとりのパターンを把握して誘導している。日頃より立位が保てるよう運動をして、便座前で立てる配慮をしている。夜間オムツ利用は2名で、職員が2人で利用者には無理の無いよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬には依存せず、食事メニューや水分補給、おやつ等便秘予防に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人ゆっくりと入浴していただいている。	週3回午前中入浴している。毎日沸かして交替で入るため、希望や気分によって入ることができる。重度化した時は診療所の器械浴対応も可能である。血行の悪い人は足浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の変化や状況に合わせて安心して睡眠がとれるよう、環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	台帳に個人の服薬情報を備えており与薬時には、名前と本人確認または飲み込みを必ず確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の嗜好や楽しみを理解し。日常の中で生かされるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者同士でホーム外を散歩したり、職員と一緒に歩いたりしている。時には家族付き添いで個々外出している。	敷地内は自由に入出りでき、自主的に運動をしている。洗濯干しや庭先、ウッドデッキには日常的に出ている。七瀬公園やレストランには時々出かけている。	

事業者名:グループホームほうゆう(りょうぜん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布(小銭)を持っている方もいらっしゃる。自己管理しており、ジュースを買ったり、パンの販売日に買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持、家族からの電話を受けている方もいらっしゃる。その他Eメール、手紙は必要時職員が支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気づくりに心掛けている。季節感のある装飾品や花を飾り楽しんでいる。	玄関入口から室内のいたる所に季節感や家庭的な雰囲気が感じられ、アイデアや工夫が見られ、室内のどこからでも季節の風景が眺められ開放感がある。ウッドデッキや庭先にいつでも出て楽しめる。室内でゆったり出来るソファや大きなテーブルもあり皆と食事が楽しめ、いつでも見守られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう場所や雰囲気作りに心がけ、ソファ、テーブル又はデッキの椅子等を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人が大切にしていた家具、寝具等装飾品を居室に置き安心して過ごせるよう配慮している。	全室窓からの眺めがよく、日当たりも考慮されている。日頃馴染んだ家具や写真、仏壇、化粧品等がおかれ、生活の香りのする居室である。布団など持込み家族の思いが詰まっていて、のんびり穏やかに過ごせる空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ、居室のレイアウトも検討し安全かつ安心して生活できるよう出来るだけ自立した生活が送れるよう支援している。		